【授業科目】輸血・移植検査学実習　Practice of Blood Transfusion and Transplantation

担当教員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
杉浦 諭	２年次 後　期	必 修	1	30	実 習	なし	巻末 掲載	可

授業概要 (内容と進め方) 及び課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／輸血や移植は重大な副反応を引き起こす可能性があるため、輸血・移植検査を正確に実施し、正しく判断できる知識と技術を身に着けることは重要である。輸血・移植検査学実習では、輸血検査の中でも最も基本的かつ重要なABO/RhD血液型検査、不規則抗体検査、交差適合試験について、適切な検査方法の選択と正確な検査手技を体得させ、最終的に一人で正しい結果を導くことができる能力を習得させる。さらに、カラム凝集法など発展的な検査方法についての理論と実際、検査結果の意義を理解した上での判定と評価についても教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／提出されたレポートにコメントすることでﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸを行う。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 (履修者が到達 すべき目標)	①　輸血検査の意義と原理を理解し、基本的操作を習得する。 ②　ABO・Rh血液型検査の目的と原理を理解した上で手技を習得し、結果を正しく判定・評価できる。 ③　不規則性抗体検査の目的と原理を理解した上で手技を習得し、結果を正しく判定・評価できる。 ④　交差適合試験の目的と原理を理解した上で手技を習得し、結果を正しく判定・評価できる。
時間外学習に必要な 学修内容および 学習上の助言	輸血・移植検査学の内容を実践するので、該当項目を理解した上で実習に参加することが望ましい。 事後、学習したポイントについてレポートを作成するとともに、復習を行う(60分)。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		全て杉浦
第 1 回	ガイダンス	
第 2・3 回	ABO血液型検査①　スライド法	
第 4・5 回	ABO血液型検査②　試験管法	
第 6・7 回	RhD血液型検査(Ｄ陰性確認試験)	
第 8・9回	不規則抗体スクリーニング検査	
第10・11回	不規則抗体同定検査	
第12・13 回	交差適合試験	
第14・15 回	カラム凝集法(ABO/RhD血液型検査・不規則抗体スクリーニング検査)	

評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 レポート 50%、学期末試験 50%		
教科書	『最新臨床検査学講座 免疫検査学/輸血・移植検査学 第2版』　医歯薬出版 必要に応じて資料を配布します	参考書等	『輸血・移植検査技術教本』 丸善出版
学生への メッセージ	輸血検査の意義と原理をよく理解し、基本的な操作を身につけると同時に、正確かつ迅速に判定・判断できる知識と技術を確実に修得してください。		